

■計画停電時における成田線のダイヤ編成を問う！

東京電力の「計画停電」を機に、成田線の運行本数の大幅削減が行われました。国難を皆で乗り切るために節電や計画停電の必要性や、首都圏機能を維持する為の交通重点政策の必要性は十分に理解していく必要があります。しかし、今回の成田線の運行本数削減は、普段から運行本数が少ないこともあり、他の路線に比べて著しいサービス低下になり、利用者の日常生活に大きな影響を与えています。3月下旬の段階で、県内を含む首都圏のほとんどの線区では60～100%の運行率を維持しているのに対して、成田線は50%に低下し、通常ダイヤで上り・下り各40本/日の運行であったものが各20本に削減されました。一時は、帰宅時間を含む特定の時間帯に6時間以上の運行空白時間が設けられることもありました。この成田線に対するJRの対応に困惑せざるを得ないとともに、それを当然とすることを到底理解できるものではありません。私は、計画停電時における成田線の不合理なダイヤ編成に対して、一貫してJRに異を唱えています。

加えて、各日のダイヤは日々変わり、その告知が、当日の早朝に各駅に張り紙で掲示されることとなりました。しかし、JRのHPにはダイヤの掲載は一切なされず、掲載さえ考えていないのかと疑いました。そこで、毎早朝JRから知らされたダイヤを、市の職員が市のHPにアップして更新することにさえなりました。

計画停電がある限り成田線は不確定なダイヤ運行となり、沿線住民は、毎日、通勤、通学に悩むようになります。夏場は、今以上に電力が逼迫することが予想されます。日本中の皆が頑張らねばならない時。多少なりとも成田線利用者の立場も配慮した、計画停電時における合理的な運行体系の考慮をJRに強く働き掛けを行っています。

■新木駅の今後について

新木駅は平成22年度にバリアフリーの基本設計を行いました。自由通路と南北口にエレベーターおよびエスカレーターを設置するための実施設計を、新年度となる平成23年度に行います。併せて、JRが実施する構内エレベーターも同時に整備できるよう協議を進めていく予定となっています。その後、平成24年度から25年度で新木駅南北エレベーターとエスカレーターの設置工事を行い、平成26年度に供用開始というスケジュールになっています。今回の大震災を理由にバリアフリー化が遅れることのないよう、注視していく必要があります。

◆#####◆

宏と語る小さな小さなティーパーティーのご案内

3月議会報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、意見交換をおこなう小さな小さなティーパーティーです。

どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

- ◆日 時：平成23年5月14日(土) 午後6時～7時30分
- ◆場 所：布佐南近隣センター(会議室)
- ◆その他：参加費無料・事前予約等不要です。



◆#####◆



現場主義

ほっと Communication

印南 宏後援会 会報
2011. 3. 30 No.50

**この度の東北地方太平洋沖地震で被害に遭われた皆様に
心よりお見舞いを申し上げます。
また、犠牲になられた方々に慎んで哀悼の意を捧げます。**

大震災の発生！

3月11日(金)、マグニチュード9.0という巨大地震が東日本を襲いました。私はその時、3月定例会議の議場にいました。その日は一般質問の3日目にあたり、質問予定者5人の内3人が質問を終了した時に大震災が発生しました。あまりの強い揺れということで市内の被害状況等の確認や対応の必要性から市議会を中断し、当初の議会日程を大幅に変更しました。その後の議会運営委員会では、3日間の開催予定であった予算委員会を2日間に短縮し、当初4つの常任委員会をそれぞれ1日ずつ開催する予定であったものを3月17日(木)の1日で終了(午前および午後それぞれ2つの常任委員会を開催)することとし、常任委員会が所管する事項の質問も継続審議することを条件に今議会中は割愛することにしました。私が市議会に席をおいて、この様な議会は初めてのことでした。

複合災害(地震と大津波、そして原発)

今回の大地震は、揺れによる倒壊や火災に加えて、東日本の太平洋沿岸地帯をのみ込んだ大津波、さらに福島第一原発での爆発事故と放射性物質の拡散など、全貌もつかむことが困難な未曾有の複合的な災害となりました。しかも余震や放射能に対する恐怖、そして輸送の為の燃料不足や道路等のインフラ崩壊のため、救援物資や人的援助が最も困っている場所に届かないなどの事態も誘発し、日本中が不安と暗澹たる思いを募らせることとなりました。

**宏と語る小さな小さな
ティーパーティー開催中！**

お気軽にお電話下さい。
行政相談もこちらへ！
ご意見をお待ちしています。

いんなんみ ひろし
印南 宏
後援会事務局 7184-2860
自 宅 7189-1598
住 所 我孫子市布佐平和台7-1-18
ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>
E-MAIL innami@mqd.biglobe.ne.jp

市内の被害状況と我孫子市の対応、そして宏の覚悟

我孫子市でも約 500 戸で家屋の損壊が発生し、その内、布佐・都地区の 188 戸が液状化現象などで甚大な被害を受けました。市は地震発生後、直ちに対策本部を立ち上げ、ライフラインの復旧や被災者への支援を行ってきました。公共施設では市庁舎、議事堂、学校施設、近隣センターなどで被害が発生しています。大切な情報の発信という点では、地震発生後、すぐにホームページで関連情報を随時更新するとともに、ツイッター、防災行政無線、チラシ、広報臨時号などを通じて、適切な情報の伝達に努めています。

そして、まずは市内の被災者対策を最優先しながらも、市外の被災者の支援と受け入れも始めました。一例として、福島県相馬市からの要請に基づいてサバイバルフーズ等 3 万 6 千食を送付するとともに、消防庁の出動指示により、緊急消防救助隊千葉県隊として署員 6 人を救急車や資機材車とともに福島県に派遣しています。

私自身も、布佐・都地区における液状化による被害状況を確認することにくわえて、被災地区近隣の公園で行われた炊き出しや給水車による給水など現場での支援活動に参画するとともに、被災者皆さんからの声に真摯に耳を傾けることに努めました。4 年前の公約に掲げた「安心・安全に暮らせる街づくり」を胸に、防災を含めた震災対応と被災地区の復興に努めていく覚悟を強くした次第です。

3月定例市議会と主な争点

3月定例市議会は3月2日から3月24日まで、23日間行われました。今議会では、総額352億7800万円に上る新年度一般会計予算案を含む全23議案が可決され、閉会しました。一般会計予算には、会期中に発生した東北地方太平洋沖地震対応のため、当初の予算案に災害復旧費（液状化被害の復旧工事を含む）として2億5千万円が急遽追加されました。

なお、主な争点は次のとおりです。

- 議案第14号である「平成23年度我孫子市一般会計予算」を巡って基本構想(※1)の見直しにおけるタイトな日程、都市計画マスタープラン(※2)と同時進行の是非、我孫子市電算システム包括委託契約における違約金の負担額、導入事業者選定委員会の選定方法について意見が集中しました。

(※1)基本構想

市のまちづくりの最も基本となる計画で将来のあるべき姿を示す「我孫子市第三次総合計画」を構成する3つの計画の一つ。我孫子市のめざす将来のまちの姿を明らかにし、その実現に向けた行財政運営の目標と基本的方向を示すもの。基本構想に加え、基本計画と実施計画で「我孫子市第三次総合計画」を構成する。

(※2)都市計画マスタープラン

都市計画法第18条の2により定めるもので、基本構想に示された将来都市像の実現に向けて、都市整備の方針を定め、今後の都市づくりを総合的に進めていくこととするもの。

- 請願（地方自治法124条）としては「容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書」の採択を求める請願が挙げられ、全員賛成で採択されました。

- 議員から5つの発議案が提出され全て採択されました。主なものは次のとおりです。

- ①生活保護制度の国庫負担の拡充を求める意見書
- ②手賀沼浄化のためのへドロの浚渫の再開を求める意見書
- ③容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書

『住んでよかった』そして『住んでみたい』と言われる街に

印南 宏 3月議会 <代表質問の骨子>

私自身は、私の属する会派「あびこ21」を代表して質問を行いました。1月の選挙に当選し、2期目の任期をスタートした星野市長の施政方針に関連して、「あびこらしさを活かした元気で活力あるまちづくり」と「行財政改革」という2つの観点で、震災の前日にあたる3月10日に質問と提言を行いました。質問と提言概要は、以下のとおりです。

I あびこらしさを活かした元気で活力あるまちづくり

- ・基本構想の見直しについて（地域コミュニティの再構築）
- ・相島芸術文化村の保存と活用
- ・手賀沼親水広場の委譲問題
- ・農業の振興（拠点施設、学校給食へ我孫子産、野菜使用、振興地域整備計画の見直し）

II 行財政改革

- ・公金徴収体制の一元化（債権回収室の概要）
- ・どうするポスト市民会館（我孫子市独自の単独館の必要性）

<<詳細は別途、議会だより、我孫子市のHP等をご参照下さい>>

宏はこう考える！

■震災復興と日本人～「分かち合い」と「精いっぱい元気」

今回の大震災は地震、津波、原発事故というかつて経験したことのない複合災害であり、未曾有の国難といえるものです。今後の復興への一手一手が日本の未来を左右する大事な選択となります。特に政治家の責務、リーダーシップが今、強く求められていると思っています。

日本人一人ひとりには、冷静に対処することとともに、大きな犠牲を払ってでも困難に立ち向かう勇気や、お互い様の気持ちで困難に直面した人を支援する優しさが求められており、その思いは被災地を含めた全国で共有されつつあると感じています。今回の震災復興は、日本人の誇りと自信を取り戻すための、長く、厳しい、そして苦しい道のりでもあります。そこに人がいる限り必ずや成し遂げられるものと信じています。

その中で、今、私たちが身近にできることの一つは、「委縮被害を拡大させない」ことかもしれません。被災地域の惨状や、資源・物資の不足を思う時、華やかな祭りやイベントを控え、被災者の悲しみに思いを馳せるとともに、不要不急の資源・物資の消費を控えるという私たちの「分かち合い」の気持ちはとても尊いものです。その一方で、経済を含む日常活動を停滞させず活性化させることも重要で、極端な委縮はかえって被災地域の復興を遅らせる懸念さえあります。復興段階を考慮しつつも、委縮せず様々な活動を通じて、未来への希望につなげていくことも大事ではないかと思っています。

その一つが、選抜高校野球の開催と甲子園球場に響き渡った開会式の宣誓。涙が出ました。「人は、仲間に支えられることで大きな困難を乗り越えることができる」と信じています。私たちが今できること。それはこの大会を精いっぱいの元気を出して戦うことです。がんばろう！日本。」そうです！負けるな！日本。素晴らしい国、日本を再度創造するために、みんなでスクラムを組んで、前を向いて歩き始めることが必要なんだと思っています。

♪ 是非、ご覧下さい!! ♪

- ◆印南宏が代表を務める

「あびこ21」ホームページ

<http://abiko21.exblog.jp/>

- ◆我孫子市公式ホームページ

<http://www.city.abiko.chiba.jp/>

